



平成22年度

長崎市提案型協働事業キックオフミーティング

# 報 告 書

平成22年5月

長崎市企画財政部市民協働推進室

## 1. キックオフミーティングの概要

### ○開催日時

平成22年5月15日(土) 14:00~17:00

### ○開催場所

市立図書館新興善メモリアルホール

### ○参加者

参加者：市民17名、市職員14名、傍聴者3名 合計34名

スタッフ：講師（福岡県NPO・ボランティアセンター専門相談員 今村晃章氏）  
総合コーディネーター（市民力推進委員会委員長 山口純哉氏）  
ファシリテーター（市民力推進委員会委員3名、市民協働推進室職員3名）

### ○プログラム

1. 開会（主催者挨拶、講師・スタッフ紹介）
2. ワークショップ（講師挨拶、ワーク説明、ワーク、グループ発表）
3. 総評（講師 今村氏）
4. 休憩
5. 講演「身近な事例から協働を学んでみよう！」（講師 今村氏）
6. 総括（総合コーディネーター 山口氏）
7. 今後のスケジュール等
8. 閉会



## 2. ワークショップの概要

昨年度（H21）から実施している「長崎市提案型協働事業」の本年度事業スタートにあたり、市民と行政との「協働」には、まずお互いの認識を深める（⇒団体や活動・組織や業務、それぞれの長短・強弱等について理解する）必要があることに気づくことを目的として開催。

テーマは、『市民活動団体・行政特徴比較シートを作ろう！』

### 1. ワークショップの進行

進行役は、講師である福岡県NPO・ボランティアセンター専門相談員の今村氏。ワークショップの開始にあたり、基本的なルールについて今村氏より説明。「グループ内では自分の意見を自由に発言してよいが、相手への非難（誹謗・中傷）の場にならないこと」など。各グループ内の作業は各ファシリテーターにより進行。

### 2. アイスブレイク

（※会の進行上、場の緊張を和ませ、参加者同士が話しやすい雰囲気を作るために行う。）

各グループ（5～6名の6グループ編成）において、自己紹介シートを使っての自己紹介。

まずは氏名、所属（団体名・活動内容、所属名・業務内容）を伝えてから、自己紹介シート（『自分を動物に例えると？』『そのココロ（理由）は・・・？』）で簡単に自己アピール。

#### ◆自己紹介シート◆ A4 縦

自分を動物に例えると？
そのココロ（理由）は・・・？



### 3. ワークショップ

- ①各自、付箋紙（市民・桃色、市職員・青色）に、「市民活動団体の特徴」、「行政の特徴」を思いっただけ記入（付箋紙1枚につき1つの特徴を書く）。それぞれの立場において、市民活動団体または行政どちらの特徴を記入してもよい。ただし記入できる付箋紙の色は一人一色（桃 or 青）のみ。
- ②記入した付箋紙を、グループ内で各自順番に発表し、模造紙上の「市民活動団体の特徴」、「行政の特徴」それぞれのカテゴリーに貼付する。また、付箋紙については、わかりやすく分類して見出しやマーカーで説明をつける。
- ③模造紙に貼付・分類された桃・青の付箋紙について、それらの特徴を「活かす」「改善する」ための、建設的な対応策を記入する。
- ④グループ発表に備え、発表者を決める（ファシリテーター以外の人）。
- ⑤模造紙にまとめた特徴と対応策を各グループで発表する。発表者1名、模造紙をもつ人2名。

#### ◆市民活動団体・行政特徴比較シート◆ 方眼模造紙（78cm×109cm）

	特徴	どのように活かす？	どのように改善する？
市民活動団体			
行政			

### 4. 総評

講師の今村氏よりワーク全体を通じて総評をいただいた。

■どのグループも桃と青の付箋紙が入り交じり、お互いの立場でよい意見交換ができている。今回は協働における導入部分であり、実際の協働においては想定していなかった問題が次々に起こるため、最終的には共に悩んで汗をかくことが協働の実現につながることを留意しておいてほしい。

### (グループ作業)



### (グループ発表)



## 3. 講演の概要

『身近な事例から協働を学んでみよう!』をテーマに、講師の今村氏より、「身近な日常生活に関係（直結）する」協働事例（福岡での取組み）について講演していただいた。

## 4. 総括

総合コーディネーターの山口氏より、当日の総括をいただいた。

■時代の流れ（多様な市民ニーズと対応する行政の限界、それに伴う市民と行政に求められる役割の変化など）とともに、協働の必要性はますます高まっており、将来的には（国の事業仕分けのように）市の事業においても、「市民側が担うべきもの、行政側が担うべきもの」、そういった適材適所での役割分担が求められることは否めない。今回のキックオフミーティングが、協働について考え、イメージするきっかけにつながっていくことを期待したい。